



一切善惡凡夫人

聞信如來弘誓願

仙言広大勝解者

の頃から大学に行くまで一緒に暮らした雑種の赤犬カール（この名前は前住がカール・マルクスをもじって付けました・・・）から四代目です。まだ三か月ですが、とても人懐こく元気なイングリッシュ・セッターの仔犬です。今ちゃんと躾（しつけ）しておかないとなれば大変ですよと獣医さんに言われ、毎日訓練に励んでいるのですが、なかなかやんちゃが收まりません。

条件反射を実証した「パブロフの大」としてよく知られている実験があります。犬のほかに手術で管を通して、唾液の分泌量を測定し、ベルを鳴らしてからエサを与える事を繰り返した結果、ベルを鳴らしただけで唾液を出すようになったというものです。これを基礎として、動物の行動（ひいては人の行動）を管理できるとする行動主義は、単純には「褒める」と「叱る」の反復によって社会に適応したしつけをしようとするものです。実験でパブロフが犬を使ったように、犬は比較的素直にこの「褒める」と「叱

る」の反復によつてしつけができるようになると感じます。ついつい「ダメ！ダメ！」の繰り返しが多くなつてしまいますが、もつと上手に、大きさにほめてやらないとダメですよと獣医さんに言われています。ただ、だれでも彼でも褒めれば喜ぶつてものでもないようになります。やはり、褒める方も、主人として犬に褒めて喜ばれる行動をちゃんとしておかないと、そつぽを向かれるようです。

しかし褒められてうれしく感じることは同じであっても、ヒトはもつと複雑です。誰に褒められてもうれしいってものではない。その道の先を行っている人に的確に褒められないといふことはあります。逆をいえば人を褒めるときに、まずは自分に褒めるだけの資格があるのか、よくよく考えてから相手を褒めなければいけないのだと思います。

犬を食いました。名前はカール。和が幼少の頃から大学に行くまで一緒に暮らした雑種の赤犬カール（この名前は前住がカール・マルク

スをもじって付けました・・・）から四代目です。まだ三か月ですが、とても人懐こく元気なイングリッシュ・セッターの仔犬です。今ちやんと躾（しつけ）しておかないと後が大変ですよと獣医さんに言われ、毎日訓練に励んでいるのですが、なかなかやんちゃが收まりません。

条件反射を実証した「パブロフの大」として

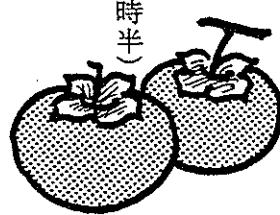
もうすぐまた報恩講の時期となります。お勧めの中で歌われるご和讃にも「他力の信心うるひとを うやまひおほきによるこべば すなはちわが親友ぞと 教主世尊はほめたまふ」という一首があります。

仏さまに褒められることを喜びとして日々を歩ませていただきましょう。（文責 住職）

秋雨がちよつとお休みしてくれた九月一十三日、彼岸会を勤めさせていただきました。境内に、永井総代会長さんが植えて下さった彼岸花が、

十月 勝林寺 予定
六日(土) 前住職一周忌

秋雨がちょっとお休みしてくれた九月二十三日、彼岸会を勤めさせていただきました。境内に、永井総代会長さんが植えて下さった彼岸花が、い日でした。貴重な晴れの日だったので、孫の運動会が重なった方、遅れていた稻刈りでどうしてもお参りできない方もありましたが、久しぶりに本堂にお念仏がひびきました。ありがとうございました。	
六 日 (土) 前住職 一周忌	八 日 (月) 田村いづみ宅 一七回忌
一一日 (木) 田中ゆきゑ宅 遷仏式	一二日 (金) 清水 豊 一五回忌
一三日 (土) 湯口孝司宅 一・三回忌	一四日 (日) 山田 稔宅 三・一三回忌
一〇日 (土) 平野孝幸宅 一一・一一一回忌	一一日 (日) 善立寺 報恩講
二一日 (日) 敬老報恩講	二二日 (金) みのりを聞く会
二七日 (土) 長專寺 報恩講	二八日 (日) 西宗寺 報恩講
二九日 (日) 斎藤バソリ宅 一三回忌	(敬称略)
内 容 法話 お食事会 懇親演芸会	敬老報恩講 十月六日 (土) 十時より 前住職 識得院釋哲俊法師 一周忌法要
その他・七十歳以上の方に招待状をお届けします。 七十歳未満の方は、会費をいただきますが、どなたでも参加していただけます。 各地区を回る送迎バスを差し向けています。	九月の寺報の折に配布いたしました、「案内の通りです。前住とご縁のあった皆さま、ぜひお参りください。」
	(敬称略)
日 時 十月二十一日 (日) 十一時より (受付一〇時半)	(敬称略)
内 容 お勤め	(敬称略)
(敬称略)	(敬称略)
	(敬称略)



十月 勝林寺 予定

「もつたいない」と「つづく」と

今年も始まつた報恩講という仏教行事は、古くは比叡山や高野山の仏教において、師匠や先輩の恩を感謝する儀式として営まれていたといいます。そういう伝統を受けて、親鸞聖人の三十三回忌に、聖人の御恩を偲んで始められたのが、今日の報恩講です。

ところで、この恩という思想は、インドの仏教が教えたものです。恩という言葉は、インドの言語クリタジユナから生まれたものですが、その意味は、クリタとは作られてものということ、ジユナとは知るということをあらわします。すなわち、誰かによって作られて「う」とを知つて、その労苦をありがたく思うこと、それを恩を知るというわけです。中国の古いことわざに、「井戸の水を飲むときには、それを掘つた人のことをも思え」という言葉がありますが、恩とは、そのような生き方を教えたものであります。

昨年ノーベル化学賞をもらわれた、田中耕一さんは、京都の島津製作所で、薬品の研究を続けていたのですが、その研究は、毎日さまざまな薬品を試験管の中で合成するということでした。ほかの研究者はその薬品をテストして成果のないものは、すべて捨てていたのですが、田中さんは、それらの高価な薬品を、たとえ成果がでなくとも捨てるのは「もつたいない」と思つて、その全部を大切に保管していたのだそうです。ところが、その保管していたものから、偉大な発見が生まれ、ノーベル化学賞の受賞となつたということです。田中さんの話によると、淨土真宗の深い信心に生きたお婆さんに育てられて、幼いころから、すべてのものの生命を大切にすることを教えられ、紙一枚でも粗末にすれると、「耕一、なんちやもつたないことをする」と

が、ぱちあたり」と怒られたということです。田中さんの発見は、そういうお婆さんの日常的な教育、「もつたいない」という、ものの考え方から生まれたものだということです。

現代の私たちの生活態度は、このような「もつたいない」という考え方、すなわち、この世界人間に偉大な貢献をとげた田中耕一さんの発見が、こういう仏教が教える「恩」の思想、もつたない」というものの考え方にもつながっています。しかしながら、失つた生活をつづけています。しかしながら、世界人類に偉大な貢献をとげた田中耕一さんの「恩」の思想、「おかげさま」「もつたいない」という考え方を、今日の私たちは、もう一度、しっかりと見直すべきであります。

(2004・11)

(信樂峻歴遺稿法語集より引用)

法語カレンダー十月

煩は 身をかづらわす

煩は 身をかづらわすといふ

勝林寺の境内の真ん中、少し高くなつたところに「やまぼうし」の木があります。その木の存知でしょうか。春に若芽を吹き、六月の初めころ、真っ白い花をたくさんつけて、お参りの皆さん

今月の言葉は「唯信鈔文意」の中から選ばれましたのです。親鸞聖人の著述を見ていくと、

煩惱という文字、そしてそれを冠した「煩惱成

就・煩惱具足・煩惱熾盛」といった四字熟語が、

目に入ります。そしてこれらの語は、凡夫・衆生を説明する文脈の中で出てきますので、私

が今どのよう生き方をしているかということと関わりて、深く味わつていくべき言葉であります。

二、三挙げておきましょう。「煩惱成就の凡夫、生死罪濁の群萌」「煩惱具足の凡夫、火宅無常の世界」「煩惱熾盛の衆生をたすけんがための」私たちは、この三つの文から、この私が煩惱によりてできあがり、煩惱を抱え、そしてその煩惱の勢いが強いこと、そんな煩惱と私の関係があらわされているどうかがうごくことができま

しょう。

煩惱の流れの中に生き、おののの孤独の思いを抱きつつ、迷いの世界に沈んでいるのです。そういう私たちを哀れみ悲しんでくださったのが、阿弥陀さまの大悲大願でありました。なんとしても仏に育て上げてやりたい、淨土に生まれて救われることがないようならわたしも仏になりません、と誓つておられるのです。そういう世界にかえつてこそ、「煩惱の衆流帰しねれば智慧のうしほに一味なり」と、智慧のうしほ(潮)に溶かされて、自他一如の世界が開けていくのです。自分も他人もみな凡夫です。そういう姿が知らされていくとき、互いに、許し合い、いたわり合い、そして、みんな尊いものをもつてゐるのだという思いが広がつていくようだ

どすん

花をたくさんつけて、お参りの皆さん

の木をたのしませてくれます。この木は、今か

ら三十年ほど前に、ご門主様(今の前門様)が

出石組にて巡教に来られた折、勝林寺にお立ち

より下さつたことを記念して植えられたもので

す。三十年の間に、元の木は弱つて枯れてしま

いましたが、代わつて、わきから出てきた一本の芽がすくすくと育ち、立派な木に成長しまし

た。花びらが散つた後は、めしげが緑色の実と

なつて残り、それが、次第に大きくなり、九月

初め頃からは色をオレンジに変え、さらに赤く

色づきます。ちょうどサクランボのような形で

す。たくさん赤い実をつけた姿は、花の季節と

はまた違う、新たな魅力的な木にお色直しをし

ます。いつもそれを見上げながら「見た目はか

わいい実でいいんだけど、これがサクランボみたいに食べられたらもつといいのになー」と

欲張りなことを思つていました。決して食べられないわけではないらしいのですが、そのまま

では残念ながら美味しくない(笑)しかし、今

年は、あんまりたくさん大きな実がなつたので、

あきらめきれない住職と私は、ネットで食べ方

を調べました。やまぼうし酒、乾燥やまぼうし、

やまぼうしジャムが紹介されました。お酒

にするのが一番魅力的でしたが(笑)道具から

揃えないといけないし、材料費もかかるので、簡単な乾燥やまぼうしとやまぼうしジャムに挑戦することにしました。あいにくの雨続きで、

乾燥やまぼうしはあえなく失敗に終わりました

が、やまぼうしジャムは、それなりにうまくできましたよ。さて、これからは、葉が赤く色づき三回目のお色直しをするやまぼうし。知らぬ間に季節は変わつてきました。(文責 坊守)